

第 155 回西讃小児科医会のご案内

【日 時】 2026 年 11 月 4 日(水) 19:00～20:30

【会 場】 マルタス <https://marugame-marutasu.jp/>

【参加費】 今年度初参加の方は年会費として2,000 円

I.19:00～19:45 第一部 特別講演

【座長】 医療法人社団 逍遙会 おぎきこどもクリニック

院長 尾崎 貴視 先生

【演者】 高松赤十字病院

産婦人科部長 新田絵美子先生

演題:「HPVワクチンの現状と今後の戦略」

抄録:

子宮頸がんは若年女性にも発症し、妊娠・出産・子育て世代が罹患することから「マザーキラー」とも呼ばれています。その多くはハイリスクHPVの持続感染が原因であり、HPVワクチンと子宮頸がん検診により予防が期待できます。わが国では、接種後に報告された多様な症状を受け、HPVワクチンの積極的勧奨が約9年間差し控えられていました。2022年に積極的勧奨が再開されたものの、香川県の接種率は依然として低い状況です。本講演では、HPVワクチンを取り巻く現状と課題を整理するとともに、接種率向上に向けた高松市医師会の取り組みを紹介し、今後の接種推進に向けた課題と方策について考えます。

第 155 回西讃小児科医会 ご出欠確認 ※ 11/2(月)締め切り

【お名前(フルネーム)】

【ご施設名】

ご出席 ・ ご欠席 ※どちらかに○をお願いいたします。

宛先:

FAX: 0877-62-6311 (第155回西讃小児科医会 事務局 宛)

Mail: t.oonishi.circ@gmail.com

(メールが届きましたら担当者から確認の返信を致します)

西讃小児科医会のワークショップはアカデミックな井戸端会議をめざしています。

この度のWSは、何か結論を出す必要はなく、解決しなければならない場でもありません。

むしろ、お互いに面識を持ち、今後の連携をしやすいするための機会ととらえていただけますと幸いです。

テーマ：

「各医療機関で将来の子宮頸がんを予防するための現実的な次の一手」

1) 外来のどの場面で、誰に声をかけるか

定期接種の対象(小6～高1相当)の子が来院するのは、他のワクチン接種、学校健診後の受診、急性疾患の受診などです。「どのタイミングなら自然に切り出せるか」「本人と保護者のどちらに話すか」など、各施設の工夫を話し合ってください。

2) 副反応を心配する保護者に、どう説明しているか

「テレビで見た」「親戚に止められた」といった具体的な場面で、どんな言葉が響いたか、あるいは響かなかったかを共有してください。

3) 思春期の子ども本人にどう届けるか

本人が納得して接種を選べるように、外来でどう話すかを考えます。学校や養護教諭との連携、性教育やがん教育との接点、SNSの情報への対応なども話し合っていいただければと思います。

4) 小児科・産婦人科・行政の連携で何ができるか

キャッチアップ接種が終わった世代を検診につなぐこと、市町の個別通知との連動、産婦人科から小児科に期待することなどを、地域の顔の見える関係づくりにつなげられます。

5) 院内の仕組みで接種率を上げるには

2回目・3回目の接種忘れを防ぐリマインド、予診票や掲示物の工夫、スタッフ全員が同じ説明をできるようにすることなどにつきご検討ください。男子への接種(任意接種で、一部の自治体に助成あり)をどう扱うかという問題もあります。

これらを参考に、各グループで話し合ってください。

まったく別の論点でも結構です。

最後に各グループより2分程で話し合った内容を発表していただきます。